

# 三世代同居と投票動員に関する実証分析

## Empirical study on three-generation-family household and election turnout

亀ヶ谷 雅彦  
Masahiko Kamegaya

### 要約

本論文では、全国意識調査の二次分析や筆者が行ったアンケート調査結果を分析して、三世代同居の家族が持つ特徴と投票動員に関する傾向について調べた。その結果、三世代同居には、地域性や保守的志向、家族投票の違いや夫婦投票の多さといった特徴が見られた。そして、三世代同居が投票率の向上に寄与しているとすれば、その要因は政治的志向や家族内の協力関係、政治的社会化のしやすさというより、三世代同居に特徴的な家族投票や夫婦投票の形態それ自体が、投票者の増加につながっているであろうということが示唆された。

キーワード：三世代同居、投票動員、二次分析、家族投票、夫婦投票

## 1 はじめに

亀ヶ谷 (2018a, 2018b) は、三世代世帯率の異なる市で投票所のフィールドワークを行って、マクロ的には三世代世帯率と投票率の間には正の相関があるものの、投票所に三世代家族が揃って訪れるといった事例がほとんどないことを観察した。その上で、亀ヶ谷 (2018b) では、例えば大家族が助け合って、手の空いた人から仕事や家事の合間に投票に行けたり、家族を連れて投票に来ることができるといった、投票所では観察できないような三世代同居の間接的な投票動員効果があるのではないかという観点を示した。

この検討のためには、投票所に来なかった人を含めて尋ねることのできる世論調査やアンケート調査を使って考察する必要がある。そこで本論文では最初に、明るい選挙推進協会が行った「第47回衆議院議員総選挙全国意識調査」(以下「明推協調査」と言う)の結果を二次分析して、三世代世帯の特徴とは何かを考察する。

なお、この明推協調査の二次分析に当たっては、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSIJ データアーカイブから「第47回衆議院議員総選挙全国意識調査, 2014」(明るい選挙推進協会)の個票データの提供を受けた。

次いで、2017年衆院選の直後に筆者が行った女子短大生に対するアンケート調査(以下「三世代同居アンケート」と言う)の結果を分析し、明推協調査では質問されていない家族投票や夫婦投票、間接的な投票動員効果などについて検討する。

## 2 明推協調査の二次分析

### 2.1 分析の方法

明推協調査は、2014年に行われた第47回衆院選における有権者の投票行動等の実態を調査し、今後の選挙啓発上の資料とすることを目的に、2015年3月19日～4月15日に全国の満20

歳以上の男女3000人を対象に郵送法で行われた。有効回収数は2029（67.6%）であった（明るい選挙推進協会 2015）。

本章では、この明推協調査データを使って、三世帯世帯に特徴的な傾向を析出する。

具体的には、「F8 世帯構成」の変数を「1人世帯」、「一世代世帯（夫婦だけ）」、「二世帯世帯（親と子）」、「三世帯世帯（親と子と孫）」、「その他の世帯+わからない+無回答」の5項目に再カテゴリー化したものと、調査された他の全ての変数とでクロス表を作った。

そして、独立性の検定で有意であり、かつ三世帯世帯に関するセルで調整済み残差の絶対値が2以上であるものを考察の対象にした。

ただし、多くのクロス表ではセルの度数が小さすぎて、そのままでは $\chi^2$ 検定ができなかったため、度数1未満のセルがなく、度数5未満のセルが全体の20%未満となるように、その都度筆者が変数項目の再カテゴリー化を行って、 $\chi^2$ 検定が可能ないように整えた。再カテゴリー化を行っても以上のようにセル度数が調整できない場合は分析から外した。

## 2.2 社会経済的属性の特徴

最初に、三世帯世帯の回答者に特徴的な社会経済的属性について検討する。

まず、年代別では、三世帯世帯の回答者は60歳代の割合が少ない（表1）。学歴では、短大・高専・専修学校卒の割合が多い（表2）。職業では、「自営業主+自由業者+家族従業」の割合が多い（表3）。

（表1）世帯構成と年代別のクロス表

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	合計
1人世帯	31 13.3%	23 9.9%	28 12.0%	31 13.3%	52 22.3%	39 16.7%	20 8.6%	9 3.9%	233 100.0%
	1.9	-1.6	-2.2	-1.7	1.0	.9	2.4	1.2	
一世代世帯 (夫婦だけ)	19 3.7%	41 8.0%	54 10.6%	70 13.7%	153 30.0%	131 25.7%	30 5.9%	12 2.4%	510 100.0%
	-5.4	-4.0	-4.6	-2.4	6.7	8.0	.8	-5	
二世帯世帯 (親と子)	109 11.6%	155 16.5%	212 22.5%	187 19.9%	141 15.0%	83 8.8%	34 3.6%	20 2.1%	941 100.0%
	2.4	4.0	5.9	3.0	-5.1	-7.0	-3.0	-1.4	
三世帯世帯 (親と子と孫)	31 11.2%	40 14.4%	48 17.3%	52 18.8%	42 15.2%	40 14.4%	18 6.5%	6 2.2%	277 100.0%
	.8	.6	.1	.7	-2.1	-.2	1.0	-.6	
その他の世帯 +わからない +無回答	10 14.7%	10 14.7%	7 10.3%	9 13.2%	14 20.6%	7 10.3%	4 5.9%	7 10.3%	68 100.0%
	1.4	.4	-1.5	-.9	.2	-1.1	.2	4.0	
合計	200 9.9%	269 13.3%	349 17.2%	349 17.2%	402 19.8%	300 14.8%	106 5.2%	54 2.7%	2029 100.0%

（注）表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。 $\chi^2 = 227.444$ ,  $df = 28$ ,  $p = .000$

(表2) 世帯構成と学歴別のクロス表

	小学校・ 中学校卒 (高等小学 校を含む)	高校卒 (旧制中学 校を含む)	短大・高専・ 専修学校卒	大学・大学院 卒(旧制高校、 旧制専門学校 を含む)	わからない + 無回答	合計
1人世帯	45 19.3% 2.8	71 30.5% -2.6	41 17.6% -.9	64 27.5% .7	12 5.2% 2.2	233 100.0%
一世帯世帯 (夫婦だけ)	96 18.8% 4.1	215 42.2% 2.1	68 13.3% -4.3	115 22.5% -1.8	16 3.1% .4	510 100.0%
二世帯世帯 (親と子)	81 8.6% -6.0	360 38.3% .1	208 22.1% 2.4	274 29.1% 3.4	18 1.9% -2.5	941 100.0%
三世帯世帯 (親と子と孫)	43 15.5% 1.1	99 35.7% -.9	73 26.4% 2.9	58 20.9% -1.9	4 1.4% -1.6	277 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	8 11.8% -.4	30 44.1% 1.0	13 19.1% -.2	8 11.8% -2.7	9 13.2% 5.2	68 100.0%
合計	273 13.5%	775 38.2%	403 19.9%	519 25.6%	59 2.9%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 109.421$ ,  $df = 16$ ,  $p = .000$

(表3) 世帯構成と職業のクロス表

	勤め	自営業主+ 自由業者+ 家族従業	主婦	学生・無職	無回答	合計
1人世帯	120 51.5% .9	21 9.0% -1.6	19 8.2% -4.2	66 28.3% 4.0	7 3.0% 1.1	233 100.0%
一世帯世帯 (夫婦だけ)	188 36.9% -6.2	63 12.4% .0	139 27.3% 6.1	110 21.6% 2.0	10 2.0% -.1	510 100.0%
二世帯世帯 (親と子)	523 55.6% 5.7	115 12.2% -.1	155 16.5% -1.9	134 14.2% -4.7	14 1.5% -1.6	941 100.0%
三世帯世帯 (親と子と孫)	131 47.3% -.5	46 16.6% 2.3	47 17.0% -.6	48 17.3% -.6	5 1.8% -.3	277 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	28 41.2% -1.3	5 7.4% -1.3	10 14.7% -.8	20 29.4% 2.3	5 7.4% 3.2	68 100.0%
合計	990 48.8%	250 12.3%	370 18.2%	378 18.6%	41 2.0%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 111.094$ ,  $df = 16$ ,  $p = .000$

居住年数では、三世帯世帯の回答者は「生まれてからずっと」の割合が多く、20年未満の割合が少ない（表4）。投票所までの所要時間では、5分未満が多く、10分以上20分未満が少ない（表5）。

（表4）世帯構成と居住年数のクロス表

	生まれて からずつ と	20年以上 (生まれて からずつ とを除く)	10年以上	3年以上	3年未満	わからない + 無回答	合計
1人世帯	46 19.7%	78 33.5%	36 15.5%	37 15.9%	21 9.0%	15 6.4%	233 100.0%
	-2.2	-2.5	1.1	3.4	3.0	.8	
一世代世帯 (夫婦だけ)	89 17.5%	256 50.2%	67 13.1%	49 9.6%	29 5.7%	20 3.9%	510 100.0%
	-4.9	4.8	.0	-1	.8	-1.6	
二世帯世帯 (親と子)	254 27.0%	371 39.4%	134 14.2%	96 10.2%	40 4.3%	46 4.9%	941 100.0%
	1.3	-1.5	1.3	.7	-1.5	-.8	
三世帯世帯 (親と子と孫)	108 39.0%	113 40.8%	23 8.3%	12 4.3%	5 1.8%	16 5.8%	277 100.0%
	5.5	-1	-2.6	-3.3	-2.6	.4	
その他の世帯 +わからない +無回答	23 33.8%	17 25.0%	7 10.3%	3 4.4%	7 10.3%	11 16.2%	68 100.0%
	1.6	-2.8	-.7	-1.5	2.0	4.1	
合計	520 25.6%	835 41.2%	267 13.2%	197 9.7%	102 5.0%	108 5.3%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。 $\chi^2=119.755$ ,  $df=20$ ,  $p=.000$

（表5）世帯構成と投票所までの所要時間のクロス表

	5分未満	10分未満	20分未満	20分以上	わからない + 無回答	合計
1人世帯	45 19.3%	107 45.9%	49 21.0%	12 5.2%	20 8.6%	233 100.0%
	-4.5	.2	2.8	2.0	3.2	
一世代世帯 (夫婦だけ)	146 28.6%	256 50.2%	75 14.7%	17 3.3%	16 3.1%	510 100.0%
	-2.1	2.6	-.2	.5	-1.7	
二世帯世帯 (親と子)	328 34.9%	413 43.9%	143 15.2%	25 2.7%	32 3.4%	941 100.0%
	2.3	-1.1	.3	-.9	-2.2	
三世帯世帯 (親と子と孫)	113 40.8%	123 44.4%	24 8.7%	5 1.8%	12 4.3%	277 100.0%
	3.2	-.3	-3.2	-1.3	-.1	

その他の世帯 +わからない +無回答	24 35.3% .5	19 27.9% -2.9	12 17.6% .6	2 2.9% .0	11 16.2% 4.7	68 100.0%
合計	656 32.3%	918 45.2%	303 14.9%	61 3.0%	91 4.5%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。 $\chi^2 = 83.208$ ,  $df = 16$ ,  $p = .000$

加入・参加団体では、三世代世帯の回答者は婦人会、PTA、農協その他の農林漁業団体を挙げた割合が多く、どれにも加入しないと答えた割合が少ない(表6)。

(表6) 世帯構成と加入・参加団体のクロス表

	婦人会		合計		PTA		合計
	非選択	選択			非選択	選択	
1人世帯	227 97.4% .8	6 2.6% -8	233 100.0%	1人世帯	232 99.6% 4.4	1 .4% -4.4	233 100.0%
一世代世帯 (夫婦だけ)	490 96.1% -6	20 3.9% .6	510 100.0%	一世代世帯 (夫婦だけ)	504 98.8% 6.4	6 1.2% -6.4	510 100.0%
二世代世帯 (親と子)	916 97.3% 1.9	25 2.7% -1.9	941 100.0%	二世代世帯 (親と子)	830 88.2% -6.6	111 11.8% 6.6	941 100.0%
三世代世帯 (親と子と孫)	258 93.1% -3.3	19 6.9% 3.3	277 100.0%	三世代世帯 (親と子と孫)	243 87.7% -3.1	34 12.3% 3.1	277 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	67 98.5% .9	1 1.5% -9	68 100.0%	その他の世帯 +わからない +無回答	65 95.6% 1.0	3 4.4% -1.0	68 100.0%
合計	1958 96.5%	71 3.5%	2029 100.0%	合計	1874 92.4%	155 7.6%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 12.926$ ,  $df = 4$ ,  $p = .012$

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 79.840$ ,  $df = 4$ ,  $p = .000$

	農協その他の 農林漁業団体		合計
	非選択	選択	
1人世帯	224 96.1%	9 3.9%	233 100.0%
	.4	-.4	
一世代世帯 (夫婦だけ)	497 97.5%	13 2.5%	510 100.0%
	2.3	-2.3	
二世代会世帯 (親と子)	905 96.2%	36 3.8%	941 100.0%
	1.1	-1.1	
三世代会世帯 (親と子と孫)	247 89.2%	30 10.8%	277 100.0%
	-5.6	5.6	
その他の世帯 +わからない +無回答	67 98.5%	1 1.5%	68 100.0%
	1.2	-1.2	
合計	1940 95.6%	89 4.4%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。

$$\chi^2 = 33.767, df = 4, p = .000$$

	どれにも加入 していない		合計
	非選択	選択	
1人世帯	118 50.6%	115 49.4%	233 100.0%
	-2.2	2.2	
一世代世帯 (夫婦だけ)	277 54.3%	233 45.7%	510 100.0%
	-1.6	1.6	
二世代会世帯 (親と子)	555 59.0%	386 41.0%	941 100.0%
	1.4	-1.4	
三世代会世帯 (親と子と孫)	178 64.3%	99 35.7%	277 100.0%
	2.5	-2.5	
その他の世帯 +わからない +無回答	36 52.9%	32 47.1%	68 100.0%
	-.8	.8	
合計	1164 57.4%	865 42.6%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。

$$\chi^2 = 13.177, df = 4, p = .010$$

都市規模では、三世代会世帯の回答者は大都市や20万人以上の市で少なく、10万人未満の市や郡部(町村)が多い(表7)。地域別では、東北、北陸、東海で多く、北海道、関東で少ない(表8)。

(表7) 世帯構成と都市規模のクロス表

	大都市	20万人 以上の市	10万人 以上の市	10万人 未満の市	郡部 (町村)	合計
1人世帯	77 33.0%	56 24.0%	36 15.5%	46 19.7%	18 7.7%	233 100.0%
	2.1	-.5	-.2	-1.0	-.8	
一世代世帯 (夫婦だけ)	151 29.6%	141 27.6%	81 15.9%	102 20.0%	35 6.9%	510 100.0%
	1.3	1.4	.0	-1.5	-2.0	
二世代会世帯 (親と子)	258 27.4%	250 26.6%	144 15.3%	208 22.1%	81 8.6%	941 100.0%
	.1	1.2	-.7	-.3	-.7	
三世代会世帯 (親と子と孫)	52 18.8%	49 17.7%	50 18.1%	86 31.0%	40 14.4%	277 100.0%
	-3.4	-3.1	1.1	3.7	3.4	
その他の世帯 +わからない +無回答	17 25.0%	18 26.5%	11 16.2%	12 17.6%	10 14.7%	68 100.0%
	-.4	.2	.1	-1.0	1.6	

合計	555 27.4%	514 25.3%	322 15.9%	454 22.4%	184 9.1%	2029 100.0%
----	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	----------------

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 47.222, df = 16, p = .000$

(表8) 世帯構成と地域のクロス表

	北海道 【北海道】	東北 【青森、岩手、 宮城、秋田、 山形、福島】	関東 【茨城、栃木、 群馬、埼玉、 千葉、東京、 神奈川】	北陸 【新潟、富山、 石川、福井】	東山 【山梨、長野、 岐阜】	東海 【静岡、愛知、 三重】
1人世帯	19 8.2%	16 6.9%	76 32.6%	6 2.6%	11 4.7%	9 3.9%
	3.4	-.5	.0	-1.6	.4	-3.5
一世代世帯 (夫婦だけ)	33 6.5%	30 5.9%	162 31.8%	17 3.3%	21 4.1%	59 11.6%
	3.3	-1.7	-.5	-1.6	-.1	.9
二世帯世帯 (親と子)	23 2.4%	71 7.5%	329 35.0%	39 4.1%	34 3.6%	96 10.2%
	-3.3	-.1	2.1	-.9	-1.2	-.4
三世帯世帯 (親と子と孫)	5 1.8%	33 11.9%	74 26.7%	27 9.7%	15 5.4%	39 14.1%
	-2.0	2.9	-2.2	4.4	1.1	2.1
その他の世帯 + わからない + 無回答	1 1.5%	5 7.4%	20 29.4%	4 5.9%	4 5.9%	10 14.7%
	-1.1	-.1	-.6	.5	.7	1.2
合計	81 4.0%	155 7.6%	661 32.6%	93 4.6%	85 4.2%	213 10.5%

	近畿 【滋賀、京都、 大阪、兵庫、 奈良、和歌山】	中国 【鳥取、島根、 岡山、広島、 山口】	四国 【徳島、香川、 愛媛、高知】	北九州 【福岡、佐賀、 長崎、大分】	南九州 【熊本、宮崎、 鹿児島、沖縄】	合計
1人世帯	41 17.6%	21 9.0%	8 3.4%	16 6.9%	10 4.3%	233 100.0%
	.4	2.4	.0	.2	-.1	
一世代世帯 (夫婦だけ)	79 15.5%	32 6.3%	19 3.7%	34 6.7%	24 4.7%	510 100.0%
	-.8	.8	.5	.2	.3	
二世帯世帯 (親と子)	167 17.7%	46 4.9%	26 2.8%	64 6.8%	46 4.9%	941 100.0%
	1.3	-1.2	-1.5	.5	.9	
三世帯世帯 (親と子と孫)	37 13.4%	11 4.0%	14 5.1%	13 4.7%	9 3.2%	277 100.0%
	-1.6	-1.2	1.6	-1.3	-1.0	
その他の世帯 + わからない + 無回答	13 19.1%	3 4.4%	2 2.9%	5 7.4%	1 1.5%	68 100.0%
	.6	-.4	-.2	.3	-1.2	

合計	337 16.6%	113 5.6%	69 3.4%	132 6.5%	90 4.4%	2029 100.0%
----	--------------	-------------	------------	-------------	------------	----------------

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 98.517$ ,  $df = 40$ ,  $p = .000$

### 2.3 政治的態度の特徴

政治への関心については、三世帯世帯の回答者は、「あまり関心を持っていない」と答えた割合が多い(表9)。また、今後の生活の見通しでは、「どちらかといえば良くなる」という回答が多い傾向がある(表10)。これらの傾向は、一世帯世帯(夫婦だけ)の回答とは対照的であった。

(表9) 世帯構成と政治への関心度のクロス表

	非常に関心を持っている	多少は関心を持っている	あまり関心を持っていない	全く関心を持っていない+ わからない+ 無回答	合計
1人世帯	46 19.7%	128 54.9%	51 21.9%	8 3.4%	233 100.0%
	.2	-1.2	1.2	.3	
一世帯世帯 (夫婦だけ)	120 23.5%	309 60.6%	74 14.5%	7 1.4%	510 100.0%
	2.8	1.1	-3.0	-2.7	
二世帯世帯 (親と子)	165 17.5%	569 60.5%	173 18.4%	34 3.6%	941 100.0%
	-1.9	1.7	-7	1.1	
三世帯世帯 (親と子と孫)	49 17.7%	151 54.5%	69 24.9%	8 2.9%	277 100.0%
	-.7	-1.4	2.7	-.3	
その他の世帯 +わからない +無回答	12 17.6%	29 42.6%	20 29.4%	7 10.3%	68 100.0%
	-.4	-2.7	2.2	3.4	
合計	392 19.3%	1186 58.5%	387 19.1%	64 3.2%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 44.317$ ,  $df = 12$ ,  $p = .000$

(表10) 世帯構成と今後の生活の見通しのクロス表

	今よりも 良くなる	どちらか といえば 良くなる	今と変わ らない	どちらか といえば 悪くなる	今よりも 悪くなる	わからな い+無回 答	合計
1人世帯	11 4.7%	18 7.7%	80 34.3%	82 35.2%	30 12.9%	12 5.2%	233 100.0%
	1.0	-.1	.4	-.6	-.1	-.2	
一世帯世帯 (夫婦だけ)	16 3.1%	28 5.5%	164 32.2%	201 39.4%	77 15.1%	24 4.7%	510 100.0%
	-.6	-2.3	-.5	1.3	1.6	-.9	

二世代世帯 (親と子)	37 3.9% .8	78 8.3% .6	321 34.1% .9	334 35.5% -1.3	122 13.0% -.1	49 5.2% -.5	941 100.0%
三世代世帯 (親と子と孫)	8 2.9% -.7	33 11.9% 2.7	86 31.0% -.8	106 38.3% .5	29 10.5% -1.4	15 5.4% .0	277 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	1 1.5% -1.0	3 4.4% -1.1	20 29.4% -.7	27 39.7% .5	6 8.8% -1.0	11 16.2% 3.9	68 100.0%
合計	73 3.6%	160 7.9%	671 33.1%	750 37.0%	264 13.0%	111 5.5%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 35.274$ ,  $df = 20$ ,  $p = .019$

保革イデオロギーでは、三世代世帯の回答者は「保守的」と答える回答者が多い(表11)。支持政党で見ても、三世代世帯の回答者は自民党支持の割合が多く、「支持政党なし」の割合が少ない(表12)。

(表11) 世帯構成と保革イデオロギーのクロス表

	保守的	やや 保守的	中間	やや 革新的	革新的	わからない +無回答	合計
1人世帯	16 6.9% -1.5	66 28.3% .5	78 33.5% -.2	31 13.3% .5	6 2.6% -.2	36 15.5% .7	233 100.0%
一世代世帯 (夫婦だけ)	45 8.8% -.7	132 25.9% -.7	188 36.9% 1.5	68 13.3% .8	18 3.5% 1.1	59 11.6% -1.9	510 100.0%
二世代世帯 (親と子)	91 9.7% .0	259 27.5% .4	318 33.8% -.2	117 12.4% .1	27 2.9% .2	129 13.7% -.4	941 100.0%
三世代世帯 (親と子と孫)	41 14.8% 3.1	79 28.5% .6	90 32.5% -.6	25 9.0% -1.8	4 1.4% -1.5	38 13.7% -.2	277 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	3 4.4% -1.5	13 19.1% -1.5	17 25.0% -1.6	10 14.7% .6	2 2.9% .1	23 33.8% 4.8	68 100.0%
合計	196 9.7%	549 27.1%	691 34.1%	251 12.4%	57 2.8%	285 14.0%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 44.892$ ,  $df = 20$ ,  $p = .001$

(表12) 世帯構成と支持政党のクロス表

	自民党	民主党	維新の党	公明党	その他の党	支持政党なし	わからない+無回答	合計
1人世帯	83 35.6%	27 11.6%	4 1.7%	8 3.4%	13 5.6%	75 32.2%	23 9.9%	233 100.0%
	-5	.3	-1.7	-1.3	.5	.9	1.0	
一世代世帯 (夫婦だけ)	192 37.6%	60 11.8%	24 4.7%	28 5.5%	33 6.5%	139 27.3%	34 6.7%	510 100.0%
	.2	.7	1.5	.3	1.9	-1.4	-1.4	
二世帯世帯 (親と子)	338 35.9%	96 10.2%	37 3.9%	51 5.4%	40 4.3%	309 32.8%	70 7.4%	941 100.0%
	-1.2	-1.0	.6	.3	-1.3	2.8	-1.1	
三世帯世帯 (親と子と孫)	125 45.1%	32 11.6%	7 2.5%	14 5.1%	11 4.0%	64 23.1%	24 8.7%	277 100.0%
	2.9	.4	-1.1	-.2	-.8	-2.6	.3	
その他の世帯 +わからない +無回答	18 26.5%	7 10.3%	2 2.9%	6 8.8%	3 4.4%	17 25.0%	15 22.1%	68 100.0%
	-1.9	-.2	-.3	1.3	-.2	-.9	4.2	
合計	756 37.3%	222 10.9%	74 3.6%	107 5.3%	100 4.9%	604 29.8%	166 8.2%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。 $\chi^2 = 49.019$ ,  $df = 24$ ,  $p = .000$

## 2.4 投票行動の特徴

2014年衆院選で投票に行ったかどうかについては、世帯構成との間に有意な関連性があったが、その内容は一世代世帯（夫婦だけ）では投票に行った人が多く、1人世帯では少なかったというものであった。三世帯世帯に関しては調整済み残差が2以上となったセルがなく、投票に行った人が他の世帯構成と比べて三世帯世帯の回答者で特に多いとは言えなかった（表13）。

(表13) 世帯構成と今回の衆院選での投票のクロス表

	投票に行った	投票に行かなかった+わからない+無回答	合計
1人世帯	146 62.7%	87 37.3%	233 100.0%
	-2.0	2.0	
一世代世帯 (夫婦だけ)	372 72.9%	138 27.1%	510 100.0%
	2.5	-2.5	
二世帯世帯 (親と子)	639 67.9%	302 32.1%	941 100.0%
	-.5	.5	

三世帯世帯 (親と子と孫)	196 70.8% .9	81 29.2% -.9	277 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	35 51.5% -3.1	33 48.5% 3.1	68 100.0%
合計	1388 68.4%	641 31.6%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。 $\chi^2 = 18.254$ ,  $df = 4$ ,  $p = .001$

小選挙区選挙で候補者を選ぶ時の考慮点では、三世帯世帯の回答者は「地元の利益を考えて」を選択する回答者が多い(表14)。また、考慮した政策課題では「子育て・教育」を選択する割合が多い一方、「年金」や「選挙制度」を選択する割合は少なかった(表15)。これも一世帯世帯(夫婦だけ)の回答とは、対照的な傾向であった。

(表14) 世帯構成と小選挙区選挙で候補者を選ぶ時の考慮点のクロス表

	地元の利益を考えて		合計
	非選択	選択	
1人世帯	122 83.6% .8	24 16.4% -.8	146 100.0%
一世帯世帯 (夫婦だけ)	305 82.0% .5	67 18.0% -.5	372 100.0%
二世帯世帯 (親と子)	531 83.1% 1.7	108 16.9% -1.7	639 100.0%
三世帯世帯 (親と子と孫)	145 74.0% -2.8	51 26.0% 2.8	196 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	24 68.6% -1.9	11 31.4% 1.9	35 100.0%
合計	1127 81.2%	261 18.8%	1388 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。 $\chi^2 = 12.542$ ,  $df = 4$ ,  $p = .014$

(表15) 世帯構成と考慮した政策課題のクロス表

	子育て・教育		合計		年金		合計
	非選択	選択			非選択	選択	
1人世帯	198	35	233	1人世帯	115	118	233
	85.0%	15.0%	100.0%		49.4%	50.6%	100.0%
	5.0	-5.0			-6	.6	
一世代世帯 (夫婦だけ)	385	125	510	一世代世帯 (夫婦だけ)	200	310	510
	75.5%	24.5%	100.0%		39.2%	60.8%	100.0%
	2.6	-2.6			-6.3	6.3	
二世帯世帯 (親と子)	634	307	941	二世帯世帯 (親と子)	529	412	941
	67.4%	32.6%	100.0%		56.2%	43.8%	100.0%
	-3.4	3.4			4.1	-4.1	
三世帯世帯 (親と子と孫)	173	104	277	三世帯世帯 (親と子と孫)	160	117	277
	62.5%	37.5%	100.0%		57.8%	42.2%	100.0%
	-3.4	3.4			2.3	-2.3	
その他の世帯 +わからない +無回答	51	17	68	その他の世帯 +わからない +無回答	38	30	68
	75.0%	25.0%	100.0%		55.9%	44.1%	100.0%
	.7	-.7			.8	-.8	
合計	1441	588	2029	合計	1042	987	2029
	71.0%	29.0%	100.0%		51.4%	48.6%	100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 43.480$ ,  $df = 4$ ,  $p = .000$

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 44.469$ ,  $df = 4$ ,  $p = .000$

	選挙制度		合計
	非選択	選択	
1人世帯	227	6	233
	97.4%	2.6%	100.0%
	1.8	-1.8	
一世代世帯 (夫婦だけ)	465	45	510
	91.2%	8.8%	100.0%
	-4.5	4.5	
二世帯世帯 (親と子)	903	38	941
	96.0%	4.0%	100.0%
	2.0	-2.0	
三世帯世帯 (親と子と孫)	270	7	277
	97.5%	2.5%	100.0%
	2.1	-2.1	
その他の世帯 +わからない +無回答	61	7	68
	89.7%	10.3%	100.0%
	-2.0	2.0	
合計	1926	103	2029
	94.9%	5.1%	100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 27.568$ ,  $df = 4$ ,  $p = .000$

小選挙区の投票政党では、三世帯世帯の回答者は自民党に投票する割合が多い(表16)。比例代表でも自民党に投票する割合が多く、共産党に投票する割合が少ない(表17)。

(表16) 世帯構成と投票政党-小選挙区のクロス表

	自民党	民主党	維新の党	公明党	日本 共産党	その他・ 無所属	白票を入 れた+わ からない +無回答	合計
1人世帯	73 50.0% .6	23 15.8% -1.0	5 3.4% -2.0	11 7.5% .6	14 9.6% 1.0	10 6.8% 1.2	10 6.8% -1	146 100.0%
一世代世帯 (夫婦だけ)	162 43.5% -1.9	85 22.8% 2.3	37 9.9% 2.1	21 5.6% -.7	39 10.5% 2.5	14 3.8% -1.1	14 3.8% -2.9	372 100.0%
二世代世帯 (親と子)	307 48.0% .1	107 16.7% -1.8	49 7.7% .2	44 6.9% .7	42 6.6% -1.3	31 4.9% .0	59 9.2% 2.9	639 100.0%
三世代世帯 (親と子と孫)	109 55.6% 2.4	38 19.4% .2	12 6.1% -.8	10 5.1% -.8	9 4.6% -1.7	8 4.1% -.5	10 5.1% -1.2	196 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	13 37.1% -1.3	8 22.9% .6	1 2.9% -1.1	3 8.6% .5	1 2.9% -1.1	4 11.4% 1.8	5 14.3% 1.7	35 100.0%
合計	664 47.8%	261 18.8%	104 7.5%	89 6.4%	105 7.6%	67 4.8%	98 7.1%	1388 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 48.284$ ,  $df = 24$ ,  $p = .002$

(表17) 世帯構成と投票政党-比例代表のクロス表

	自民党	民主党	維新の党	公明党	日本 共産党	その他・ 無所属	白票を入 れた+わ からない +無回答	合計
1人世帯	61 41.8% .6	25 17.1% .0	12 8.2% -1.2	12 8.2% -.6	12 8.2% -.4	12 8.2% 1.6	12 8.2% .2	146 100.0%
一世代世帯 (夫婦だけ)	133 35.8% -1.8	74 19.9% 1.6	49 13.2% 1.3	33 8.9% -.5	48 12.9% 3.1	20 5.4% .0	15 4.0% -3.2	372 100.0%
二世代世帯 (親と子)	252 39.4% -.1	102 16.0% -1.1	73 11.4% .1	63 9.9% .3	52 8.1% -1.0	35 5.5% .1	62 9.7% 2.4	639 100.0%
三世代世帯 (親と子と孫)	97 49.5% 3.0	32 16.3% -.4	20 10.2% -.5	18 9.2% -.2	10 5.1% -2.1	5 2.6% -1.9	14 7.1% -.4	196 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	7 20.0% -2.4	6 17.1% .0	3 8.6% -.5	7 20.0% 2.1	3 8.6% -.1	3 8.6% .8	6 17.1% 2.1	35 100.0%
合計	550 39.6%	239 17.2%	157 11.3%	133 9.6%	125 9.0%	75 5.4%	109 7.9%	1388 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 49.054$ ,  $df = 24$ ,  $p = .002$

自民・公明党政権に交代する前の2012年に民主党政権下で行われた第46回衆院選での投票政党について、小選挙区では三世帯世帯の回答者が投票する割合に大きな違いは見られなかった。しかし比例代表では、三世帯世帯の回答者は自民党に投票する割合が多かった（表18、19）。

(表18) 世帯構成と投票政党-小選挙区（第46回衆院選）のクロス表

	民主党	自民党	公明党	日本維 新の会	日本共 産党	その他 の党+ 無所属	投票し なかつ た	白票を入 れた+選 挙権が なかつ た+わ からな い+無 回答	合計
1人世帯	60 25.8%	73 31.3%	10 4.3%	2 .9%	5 2.1%	14 6.0%	30 12.9%	39 16.7%	233 100.0%
	-4	-7	-1	-2.5	-8	1.8	2.3	.4	
一世帯世帯 (夫婦だけ)	152 29.8%	189 37.1%	26 5.1%	16 3.1%	20 3.9%	21 4.1%	35 6.9%	51 10.0%	510 100.0%
	1.8	2.0	.8	-1.0	1.5	.3	-1.9	-4.1	
二世帯世帯 (親と子)	230 24.4%	298 31.7%	43 4.6%	50 5.3%	28 3.0%	34 3.6%	91 9.7%	167 17.7%	941 100.0%
	-2.2	-1.5	.3	3.1	.0	-6	1.1	2.3	
三世帯世帯 (親と子と孫)	81 29.2%	102 36.8%	9 3.2%	9 3.2%	6 2.2%	8 2.9%	18 6.5%	44 15.9%	277 100.0%
	1.0	1.3	-1.0	-6	-8	-9	-1.5	.1	
その他の世帯 +わからない +無回答	20 29.4%	15 22.1%	2 2.9%	2 2.9%	1 1.5%	2 2.9%	7 10.3%	19 27.9%	68 100.0%
	.5	-2.0	-6	-4	-7	-4	.4	2.8	
合計	543 26.8%	677 33.4%	90 4.4%	79 3.9%	60 3.0%	79 3.9%	181 8.9%	320 15.8%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 60.428$ ,  $df = 28$ ,  $p = .000$

(表19) 世帯構成と投票政党-比例代表（第46回衆院選）のクロス表

	民主党	自民党	公明党	日本維 新の会	日本共 産党	その他 の党+ 無所属	投票し なかつ た	白票を入 れた+選 挙権が なかつ た+わ からな い+無 回答	合計
1人世帯	48 20.6%	62 26.6%	14 6.0%	8 3.4%	11 4.7%	17 7.3%	27 11.6%	46 19.7%	233 100.0%
	-1.2	-1.3	.0	-1.8	.9	2.0	1.6	1.4	
一世帯世帯 (夫婦だけ)	136 26.7%	164 32.2%	35 6.9%	39 7.6%	23 4.5%	27 5.3%	32 6.3%	54 10.6%	510 100.0%
	1.7	1.0	.9	1.7	1.1	.8	-2.3	-4.2	
二世帯世帯 (親と子)	224 23.8%	262 27.8%	57 6.1%	60 6.4%	33 3.5%	39 4.1%	95 10.1%	171 18.2%	941 100.0%
	.0	-2.2	.0	.6	-4	-1.1	1.9	1.9	

三世帯世帯 (親と子と孫)	64 23.1%	110 39.7%	11 4.0%	11 4.0%	6 2.2%	9 3.2%	18 6.5%	48 17.3%	277 100.0%
	-3	3.7	-1.6	-1.6	-1.5	-1.2	-1.5	.4	
その他の世帯 +わからない +無回答	12 17.6%	17 25.0%	6 8.8%	5 7.4%	2 2.9%	3 4.4%	7 10.3%	16 23.5%	68 100.0%
	-1.2	-1.0	1.0	.5	-3	-.1	.4	1.6	
合計	484 23.9%	615 30.3%	123 6.1%	123 6.1%	75 3.7%	95 4.7%	179 8.8%	335 16.5%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 61.145$ ,  $df = 28$ ,  $p = .000$

## 2.5 選挙情報利用の特徴

政治、選挙の主な情報取得法では、三世帯世帯の回答者は「家族や知人の話」が多く、「インターネット」が少ない(表20)。この傾向は、「新聞」が多い一世帯世帯(夫婦だけ)や「インターネット」が多い二世帯世帯(親と子)と異なっている。

今回の衆院選で見たり聞いたりしたものでは、三世帯世帯の回答者は「政党の選挙公約などが記載されたパンフレット」を選択する割合は少なく(表21)、今回の衆院選で役に立ったものでも「政党の選挙公約などが記載されたパンフレット」や「インターネットによる選挙運動(政党や候補者のHP、ブログ、SNS等)」を選択する割合は少ない(表22)。このように、三世帯世帯の回答者はマニフェスト選挙やインターネット選挙にあまり注目していないようである。

(表20) 世帯構成と政治、選挙の主な情報取得法のクロス表

	テレビ	新聞	インター ネット	家族や知人 の話	ラジオ+雑 誌+その他 +無回答	合計
1人世帯	144 61.8%	41 17.6%	24 10.3%	10 4.3%	14 6.0%	233 100.0%
	-.4	-2.1	1.9	.2	3.4	
一世帯世帯 (夫婦だけ)	296 58.0%	170 33.3%	21 4.1%	10 2.0%	13 2.5%	510 100.0%
	-2.7	6.3	-3.1	-2.7	-.2	
二世帯世帯 (親と子)	606 64.4%	190 20.2%	86 9.1%	39 4.1%	20 2.1%	941 100.0%
	1.2	-2.9	3.2	.3	-1.4	
三世帯世帯 (親と子と孫)	183 66.1%	59 21.3%	12 4.3%	18 6.5%	5 1.8%	277 100.0%
	1.1	-.8	-2.0	2.3	-1.0	
その他の世帯 +わからない +無回答	50 73.5%	9 13.2%	3 4.4%	4 5.9%	2 2.9%	68 100.0%
	1.8	-2.0	-.9	.8	.1	
合計	1279 63.0%	469 23.1%	146 7.2%	81 4.0%	54 2.7%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 77.400$ ,  $df = 16$ ,  $p = .000$

(表21) 世帯構成と今回の衆院選で見たり聞いたりしたもののクロス表

	政党の選挙公約などが記載されたパンフレット		合計			合計
	非選択	選択		非選択	選択	
1人世帯	177	56	233	238	39	277
	76.0%	24.0%	100.0%	85.9%	14.1%	100.0%
	-1.9	1.9		2.4	-2.4	
一世代世帯 (夫婦だけ)	382	128	510	61	7	68
	74.9%	25.1%	100.0%	89.7%	10.3%	100.0%
	-3.8	3.8		1.9	-1.9	
二世帯世帯 (親と子)	779	162	941	1637	392	2029
	82.8%	17.2%	100.0%	80.7%	19.3%	100.0%
	2.2	-2.2				

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 25.353, df = 4, p = .000$

(表22) 世帯構成と今回の衆院選で役に立ったもののクロス表

	政党の選挙公約などが記載されたパンフレット		合計	インターネットによる選挙運動(政党や候補者のHP、ブログ、SNS等)		合計
	非選択	選択		非選択	選択	
1人世帯	186	26	212	198	14	212
	87.7%	12.3%	100.0%	93.4%	6.6%	100.0%
	-1.5	1.5		-2.1	2.1	
一世代世帯 (夫婦だけ)	421	56	477	464	13	477
	88.3%	11.7%	100.0%	97.3%	2.7%	100.0%
	-2.1	2.1		1.6	-1.6	
二世帯世帯 (親と子)	799	75	874	832	42	874
	91.4%	8.6%	100.0%	95.2%	4.8%	100.0%
	1.1	-1.1		-1.8	1.8	
三世帯世帯 (親と子と孫)	238	14	252	249	3	252
	94.4%	5.6%	100.0%	98.8%	1.2%	100.0%
	2.2	-2.2		2.4	-2.4	
その他の世帯 +わからない +無回答	50	4	54	52	2	54
	92.6%	7.4%	100.0%	96.3%	3.7%	100.0%
	.5	-.5		.1	-.1	
合計	1694	175	1869	1795	74	1869
	90.6%	9.4%	100.0%	96.0%	4.0%	100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 10.456, df = 4, p = .033$

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 12.544, df = 4, p = .014$

## 2.6 選挙啓発運動に対する認知の特徴

今回の衆院選の実施(全体としてきれいに行われたか)については、三世帯世帯の回答者は「そうとはいえない」と答える割合が少なかった(表23)。また、明るい選挙推進協議会や白ばら会の認知に関しても三世帯世帯の回答者は「知っている」割合が多く、「知らない」割合が少ない(表24)。さらに、今回の衆院選で選管等からの投票の呼びかけで見聞きしたのものについても、三世帯世帯の回答者では「見聞きしなかった」割合が少なかった(表25)。

(表23) 世帯構成と今回の衆院選の実施（全体としてきれいに行われたか）のクロス表

	きれいに行われた	そうはいえない	一概にいいない	わからない+無回答	合計
1人世帯	40 17.2%	30 12.9%	71 30.5%	92 39.5%	233 100.0%
	.7	-.8	1.2	-1.0	
一世代世帯 (夫婦だけ)	78 15.3%	96 18.8%	151 29.6%	185 36.3%	510 100.0%
	-.2	3.1	1.3	-3.3	
二世帯世帯 (親と子)	150 15.9%	132 14.0%	232 24.7%	427 45.4%	941 100.0%
	.4	-.7	-2.5	2.5	
三世帯世帯 (親と子と孫)	43 15.5%	28 10.1%	84 30.3%	122 44.0%	277 100.0%
	.0	-2.3	1.2	.6	
その他の世帯 +わからない +無回答	6 8.8%	10 14.7%	16 23.5%	36 52.9%	68 100.0%
	-1.6	.0	-.7	1.8	
合計	317 15.6%	296 14.6%	554 27.3%	862 42.5%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 27.652$ ,  $df = 12$ ,  $p = .006$

(表24) 世帯構成と明るい選挙推進協議会や白ばら会の認知のクロス表

	知っている	知らない	無回答	合計
1人世帯	25 10.7%	200 85.8%	8 3.4%	233 100.0%
	-.3	-.2	.9	
一世代世帯 (夫婦だけ)	61 12.0%	431 84.5%	18 3.5%	510 100.0%
	.6	-1.3	1.6	
二世帯世帯 (親と子)	93 9.9%	832 88.4%	16 1.7%	941 100.0%
	-1.8	2.7	-2.3	
三世帯世帯 (親と子と孫)	44 15.9%	228 82.3%	5 1.8%	277 100.0%
	2.6	-2.0	-.9	
その他の世帯 +わからない +無回答	5 7.4%	58 85.3%	5 7.4%	68 100.0%
	-1.0	-.2	2.5	
合計	228 11.2%	1749 86.2%	52 2.6%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 21.253$ ,  $df = 8$ ,  $p = .007$

(表25) 世帯構成と今回の衆院選で選管等からの投票の呼びかけで見聞きしたもののクロス表

	見聞きしなかった		合計				
	非選択	選択					
1人世帯	192 82.4% -1.3	41 17.6% 1.3	233 100.0%	三世代世帯 (親と子と孫)	251 90.6% 2.7	26 9.4% -2.7	277 100.0%
一世代世帯 (夫婦だけ)	453 88.8% 2.7	57 11.2% -2.7	510 100.0%	その他の世帯 +わからない +無回答	56 82.4% -.7	12 17.6% .7	68 100.0%
二世帯世帯 (親と子)	777 82.6% -3.1	164 17.4% 3.1	941 100.0%	合計	1729 85.2%	300 14.8%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 18.801$ ,  $df = 4$ ,  $p = .001$

このように、三世代世帯の回答者は選挙啓発運動について比較的に見聞きすることが多く、選挙啓発運動の成果についても否定的な見方をしていない。その一方で、選挙権年齢を18歳以上に引き上げることへの賛否に関しては、三世代世帯の回答者は反対の割合が多く、賛成の割合が少なかった(表26)。

(表26) 世帯構成と選挙権年齢を18歳以上に引き下げることへの賛否のクロス表

	賛成	反対	わからない +無回答	合計
1人世帯	105 45.1% -.1	61 26.2% -1.1	67 28.8% 1.2	233 100.0%
一世代世帯 (夫婦だけ)	234 45.9% .2	168 32.9% 2.2	108 21.2% -2.6	510 100.0%
二世帯世帯 (親と子)	464 49.3% 3.3	248 26.4% -2.6	229 24.3% -1.1	941 100.0%
三世代世帯 (親と子と孫)	97 35.0% -3.7	98 35.4% 2.5	82 29.6% 1.7	277 100.0%
その他の世帯 +わからない +無回答	22 32.4% -2.2	16 23.5% -1.0	30 44.1% 3.6	68 100.0%
合計	922 45.4%	591 29.1%	516 25.4%	2029 100.0%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。 $\chi^2 = 38.806$   $df = 8$ ,  $p = .000$

### 3 三世同居アンケートの分析

#### 3.1 分析の方法

本章では、三世同居アンケートの結果を分析する。このアンケート調査は、2017年衆院選が終わった直後の2017年11月に筆者が勤務する山形県立米沢女子短大の学生に対して行ったもので、回答者はすべて18歳以上の女性であり、有効回答数は102人であった。なお回答に当たって、実家を離れて暮らしている回答者に対しては、実家にいる時のことを答えてもらうように教示した。

単純集計を行った後には、「三世同居か核家族か」という「家族構成」の変数と、他の変数とでクロス表を作り、独立性の検定を行った。この際、「家族構成」で「その他」と答えた1名については分析対象から除いた。

そして前章と同様に、独立性の検定で有意であり、かつ三世同居に関するセルで調整済み残差の絶対値が2以上であるものを考察した。セルの度数が小さすぎて、そのままでは $\chi^2$ 検定ができなかった場合には、度数1未満のセルがなく、度数5未満のセルが全体の20%未満となるように、その都度筆者が変数項目の再カテゴリー化を行って、 $\chi^2$ 検定が可能ないように整えた。再カテゴリー化を行っても以上のようにセル度数が調整できない場合は分析から外した。

#### 3.2 単純集計

最初に三世同居アンケートの単純集計結果を概観する。まず回答者の実家のある県については、山形県が55人(53.92%)と最も多く、次いで福島が9人(8.82%)、岩手と秋田が各8人(7.84%)と続いた。

次に、回答者の家族構成に関して、「あなた(兄弟姉妹がいる場合を含む)と、父・母(どちらか一方だけの場合を含む)と、祖父・祖母(どちらか一方だけの場合を含む)の三世同居を含む家族が同居している」と答えた回答者は44人(43.14%)であった。一方、「あなた(兄弟姉妹がいる場合を含む)と、父・母(どちらか一方だけの場合を含む)の核家族だけで同居している」と答えた回答者は57人(55.88%)、「その他」が1人(0.98%)、「わからない」が0人(0.00%)だった。

回答者の実家でどのような形で投票に行くかという「家族投票類型」に関しては、「家族がいくつかのグループに分かれて投票に行くことが多い」が34人(33.33%)、「家族が一人一人、別々に投票に行くことが多い」が32人(31.37%)、「家族みんなで投票に行くことが多い」が25人(24.51%)、「誰も投票に行かないことが多い」と「その他」が各3人(2.94%)、「わからない」が5人(4.90%)であった。

この家族投票類型を家族成員別に聞いた回答(表27)では、回答者の直近の兄・妹は既に実家を出て生活しているのか、75%が「実家にいない」と答えており、何らかの形で投票へ行くことが多いと回答した割合は1割台にとどまる。回答者の祖父や祖母についても、回答者の5~6割が「実家にいない」と答えており、「家族みんなで投票に行くことが多い」割合は数%にとどまっている。

これらに対して、回答者の父や母は実家にいることが多く、父は7割、母は8割が何らかの形で投票に行くことが多いと回答されている。なかでも「一人一人、別々に投票に行くことが多い」という回答が父母それぞれで3割と一番多く、「家族みんなで投票に行くことが多い」という回答者は4分の1ほどであった。

回答者自身についても4分の1ほどは、実際には実家を出て生活している。そして5割強の回答者は、何らかの形で投票に行くことが多いと答えているが、「いくつかのグループに分

かれて投票に行くことが多い」という答えが2割台で、他の家族投票類型よりもやや多かった。

三世代同居アンケートには、例えば、「三世代同居では家族間で家事や仕事の手伝いをするので、他の家族が投票に行きやすくなる」、「三世代同居では家族間の政治的社会化がしやすいので、投票に行くようになる」、「三世代同居ではどこかに出かけるついでに投票所に行く人は少ない」、「三世代同居では夫婦で投票することが多い」、「三世代同居では投票参加で得られる効用が高い」など、亀ヶ谷（2018a、2018b）での考察を踏まえて考え出された作業仮説を確かめるための質問を含んでいる。以下、このような質問に対する単純集計結果を見ていく。

まず、実家で投票に行きやすくするために家族で助け合っているかに関して、育児や家事のある人や、会社や家業の仕事がある人が、投票に行けるように別の家族が手伝ってあげることは、「いつもある」と「時々ある」を合わせてもそれぞれ1割台にとどまり、このような協力行動はあまりなされていない。一方、運転免許証を持たない人が投票に行けるように別の家族が車を運転してあげることは「いつもある」が4割弱で、「時々ある」を加えると半数以上の回答者で見られる協力行動であった（表28）。

（表27）家族成員別の家族投票類型

	① 家族みんな で投票に行 くことが多い	② いくつかのグ ループに分 かれて投票 に行くこと が多い	③ 一人一人、 別々に投票 に行くこと が多い	④ 投票に行か ないことが 多い	⑤ 選挙ことに 違う	⑥ 実家にいな い	⑦ わからない	合 計
(1)一番年齢の 近い姉	5 5.00%	5 5.00%	5 5.00%	2 2.00%	1 1.00%	75 75.00%	7 7.00%	100 100.00%
(2)一番年齢の 近い兄	2 2.00%	3 3.00%	9 9.00%	2 2.00%	0 0.00%	75 75.00%	9 9.00%	100 100.00%
(3)父	24 24.00%	17 17.00%	31 31.00%	5 5.00%	0 0.00%	14 14.00%	9 9.00%	100 100.00%
(4)母	26 26.00%	26 26.00%	30 30.00%	8 8.00%	1 1.00%	2 2.00%	7 7.00%	100 100.00%
(5)父方の祖父	3 3.00%	7 7.00%	11 11.00%	1 1.00%	3 3.00%	60 60.00%	15 15.00%	100 100.00%
(6)父方の祖母	6 6.00%	11 11.00%	12 12.00%	3 3.00%	3 3.00%	52 52.00%	13 13.00%	100 100.00%
(7)母方の祖父	4 4.04%	5 5.05%	7 7.07%	1 1.01%	1 1.01%	63 63.64%	18 18.18%	99 100.00%
(8)母方の祖母	4 4.00%	5 5.00%	9 9.00%	0 0.00%	1 1.00%	60 60.00%	21 21.00%	100 100.00%
(9)あなた自身	17 17.00%	22 22.00%	17 17.00%	17 17.00%	0 0.00%	24 24.00%	3 3.00%	100 100.00%

(表28) 間接的な投票動員効果に関する質問

	いつも ある	時々ある	あまり ない	全くない	わから ない	合計
実家では、育児や家事のある人が投票に行けるように、別の家族が手伝ってあげる	5 5.05%	10 10.10%	25 25.25%	38 38.38%	21 21.21%	99 100.00%
実家では、会社や家業の仕事がある人が投票に行けるように、別の家族が手伝ってあげる	2 2.00%	10 10.00%	21 21.00%	41 41.00%	26 26.00%	100 100.00%
実家では、運転免許証を持たない人が投票に行けるように、別の家族が車を運転してあげる	38 37.62%	14 13.86%	3 2.97%	29 28.71%	17 16.83%	101 100.00%

次に、家族の間での政治的社会化のしやすさに関する質問（表29）について見ると、まず、ふだん選挙に関する話題を話す頻度については「あまり話さない」が52人（50.98%）と半数であった。「いつも話す」は2.94%で「時々話す」を合わせても3割程度であり、政治的会話を通じた家族間の政治的社会化は低調のようである。

しかし、家族が投票に行くとなると自分も投票に行こうという気持ちになるかを尋ねると、「とてもなる」と「ややなる」を合わせて8割弱と多い。

さらに、子供の時、家族に投票所に連れて行ってもらったかについても、「いつもあった」と「時々あった」を合わせると6割の回答者が、投票所に家族と一緒にいった経験を挙げている。亀ヶ谷（2018a, 2018b）では、投票所で観察された18歳未満の人数は全体の1割未満であったが、上の質問では過去の累積的経験を聞いたために、このように多くなったのである。

ともあれ、こうして見ると、政治的な会話は回答者の家族の間では少ないが、家族が投票に行く姿を子供に見せたり、子供の時に投票所に連れて行ってもらった経験は多いということから、非言語的な政治的社会化は、回答者の家族の間で、かなり行われていることがうかがえる。

(表29) 政治的社会化のしやすさに関する質問

	いつも 話す	時々話す	あまり 話さない	全く 話さない	わから ない	合計
実家では、ふだん選挙に関する話題をどのくらい話しますか	3 2.94%	30 29.41%	52 50.98%	16 15.69%	1 0.98%	102 100.00%
	とても なる	ややなる	あまり ならない	全く ならない	わから ない	合計
家族が投票に行くとなると自分も投票に行こうという気持ちになりますか	22 21.57%	57 55.88%	14 13.73%	6 5.88%	3 2.94%	102 100.00%
	いつも あった	時々 あった	あまり なかった	全く なかった	わから ない	合計
子供の時、家族に投票所へ連れていってもらったことがありましたか	15 14.71%	48 47.06%	8 7.84%	29 28.43%	2 1.96%	102 100.00%

実家では夫婦で投票する人が多いかについて複数回答で尋ねた結果(表30)を見ると、回答者の父母が夫婦で投票に行くことが多いと答えた割合はほぼ4割に上った。また回答者の祖父母が夫婦で投票に行くことが多いと答えた割合は1割であった。

実家では、投票する時に投票所だけに行き帰ってくる人が多いかについての質問では、「投票所だけに行き帰ってくる人が多い」と答えた回答者が35人(34.31%)、「投票所以外に、どこかに出かけてくる人が多い」が47人(46.08%)、「投票に行かない人が多い」が2人(1.96%)、「その他」が1人(0.98%)、「わからない」が17人(16.67%)という結果となった。亀ヶ谷(2018b)では、投票所に来る人は普段着が多い一方で、市街地では仕事着で投票に来る人もいたことが観察されている。とすると、「投票所以外に、どこかに出かけてくる人が多い」という回答は、普段着で近所や仕事に「出かける」ことを指しているのかも知れない。

実家で、投票日の前に投票する「期日前投票」に行く人が多いかについては、「とても多い」が9人(8.82%)、「やや多い」が15人(14.71%)、「あまり多くない」が24人(23.53%)、「全くない」が30人(29.41%)、「わからない」が24人(23.53%)という回答結果となり、「とても多い」と「やや多い」を合わせた回答者は2割強であった。

また、実家で、同居する家族以外の人と一緒に投票に行くことがあるかについては、「とてもある」と「ややある」を合わせても6%弱しかおらず、7割弱の回答者は「全くない」と答えており、ほとんどの回答者の実家では、家族同士でしか投票に行っていない(表31)。

投票参加で得られる効用に関しては、以下のような質問を尋ねた。

まず、実家がある地域では、選挙の時に候補者同士が接戦であることが多いかを聞いた質問では、「接戦であることが多い」が15人(14.71%)、「接戦でないことが多い」が22人(21.57%)、「選挙ごとに異なる」が16人(15.69%)、「わからない」が49人(48.04%)という回答結果であった。

実家では投票へ行くことは大変か、という投票のコストの程度を聞いた質問では、「とても大変だ」が1人(0.98%)、「やや大変だ」が5人(4.90%)、「あまり大変でない」が53人(51.96%)、「全く大変でない」が38人(37.25%)、「わからない」が5人(4.90%)という回答結果となった。

(表30) 実家で、夫婦で投票に行くこと  
の多い人(複数回答、N=102)

	度数	Nに対する割合
父母	40	39.22%
祖父・祖母	11	10.78%
兄・姉	3	2.94%
特にいない	40	39.22%
その他	0	0.00%
わからない	13	12.75%

(表31) 実家で、同居する家族以外の人と  
一緒に投票に行くことがあるか

	度数	割合
とてもある	1	0.98%
ややある	5	4.90%
あまりない	13	12.75%
全くない	68	66.67%
わからない	15	14.71%
合計	102	100.00%

(表32) 実家で「投票に行くべきだ」と  
いう考えが強い

	度数	割合
とても強い	15	14.71%
やや強い	38	37.25%
あまり強くない	35	34.31%
全く強くない	9	8.82%
わからない	5	4.90%
合計	102	100.00%

実家では「投票に行くべきだ」という考えが強いかという義務投票感の程度を聞いた質問では、「とても強い」と「やや強い」を合わせて回答者の半数となった（表32）。

最後に、家族がもっと投票しやすくなるためには、どのようなことをすればいいかについて自由回答で尋ね、筆者がコーディングしてまとめた結果（表33）を見ると、投票所を近くにしたり数を増やすといった投票所関連の回答や、ニュースや教育などにより「有権者の意識を変えたり、関心を増加させる」ことに関する回答、スマートフォンやインターネットで投票できるようにするといった回答が比較的多かった。

（表33）家族が投票しやすくするためにはどのようなことをすればよいか

	度数	割合
投票所関連（近くに、数増やす）	9	16.36%
意識変革や関心増加（ニュース、教育）	9	16.36%
スマホ・ネット投票	8	14.55%
家族他と話をする	7	12.73%
投票時間・期間関連（長く、期日前投票）	4	7.27%
候補者・公約情報を増やす	3	5.45%
その他	8	14.55%
問題なし	7	12.73%
合 計	55	100.00%

（注）自由回答を再カテゴリー化した。

### 3.3 地域性や家族投票類型との関連

ここからは、「三世同居か核家族か」という「家族構成」変数と、各変数との間でクロス表分析を行い、三世同居の持つ特徴を考察する。

独立性の検定で有意な関連性が見られたものを取り上げていくと、まず、実家のある県については、三世同居の回答者は山形県に多く、核家族の回答者はそれ以外の県に多い（ $\chi^2 = 5.923, df = 1, p = .015$ ）。

また、三世同居の回答者は核家族の回答者よりも、家族投票類型において「家族がいくつかのグループに分れて投票に行くことが多い」とする割合が大きい（表34）。家族成員別に見ると、検定が可能であった父、母、回答者自身の家族投票類型についても、家族全体の場合と同様に、三世同居の回答者では「いくつかのグループに分れて投票に行くことが多い」とする割合が大きかった。

このように三世同居の実家では、家族みんなで揃って投票することや、一人ずつ別々に投票することは、核家族に比べて特段多いとは言えなかったが、いくつかのグループに分れて投票に行くことは、核家族と比べても特に多い傾向が見られる。

なお、家族投票類型の変数項目を「誰も投票に行かないことが多い+わからない」か「家族みんなで投票に行くことが多い+家族がいくつかのグループに分れて投票に行くことが多い+家族が一人一人、別々に投票に行くことが多い+その他」かに再カテゴリー化して、「三世同居か核家族か」との間でクロス表を作り、フィッシャーの直接確率検定を行ったものの、有意な関連性は見られなかった（ $p = .134$ ）。このように、三世同居か核家族かの違いは、何らかの形であれ投票に行くことが多いかどうかの間には、大きな差を生じさせない。

(表34) 家族構成と家族投票類型のクロス表

	家族みんなで投票に行くことが多い	家族がいくつかのグループに分かれて投票に行くことが多い	家族が一人一人、別々に投票に行くことが多い	誰も投票に行かないことが多い+その他+わからない	合計
三世代同居	8 18.18% -1.3	22 50.00% 3.1	13 29.55% -4	1 2.27% -2.3	44 100.00%
核家族	17 29.82% 1.3	12 21.05% -3.1	19 33.33% 4	9 15.79% 2.3	57 100.00%
合計	25 24.75%	34 33.66%	32 31.68%	10 9.90%	101 100.00%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  $\chi^2 = 12.236$ ,  $df = 3$ ,  $p = .007$

### 3.4 家族間における投票協力との関連

次に、間接的な投票動員効果に関する要因について分析を行ったものの、三世代同居の回答者と核家族の回答者との間で大きな違いは見られなかった。

まず、育児や家事のある人が投票に行けるように別の家族が手伝ってあげることが「いつももある+時々ある」か「あまりない+全くない+わからない」かと、「三世代同居か核家族か」との間には、有意な関連性が見られなかった ( $\chi^2 = 2.382$ ,  $df = 2$ ,  $p = .304$ )。

また、会社や家業の仕事がある人が投票に行けるように、別の家族が手伝ってあげることが「いつももある+時々ある」か「あまりない+全くない+わからない」かとの間にも、有意な関連性は見られなかった ( $\chi^2 = 2.141$ ,  $df = 2$ ,  $p = .343$ )。

同様に、運転免許証を持たない人が投票に行けるように、別の家族が車を運転してあげることが「いつももある+時々ある」か「あまりない+全くない+わからない」かとの間にも、有意な関連性は見られなかった ( $\chi^2 = 1.680$ ,  $df = 2$ ,  $p = .432$ )。

このように、別の家族が投票できるように育児・家事や会社・家業の仕事を手伝ってあげることや、運転できない家族が投票するために車を運転してあげるとは、三世代同居であるからといって、核家族と比べて特に多いとは言えない。

### 3.5 家族間における政治的社会化との関連

続いて、家族間の政治的社会化のしやすさに関する要因と、「三世代同居か核家族か」との間に関連性があるかを検討したが、これについても有意な関連性は見られなかった。

まず、「家族が投票に行くと自分も投票に行こうという気持ちになるか」という質問について「とてもなる+ややなる」か「あまりならない+全くならない+わからない」かと、「三世代同居か核家族か」との間には、有意な関連性が見られなかった ( $\chi^2 = 0.000$ ,  $df = 1$ ,  $p = .992$ )。

同様に、「ふだん選挙に関する話題をどのくらい話すか」について「いつも話す+時々話す」か「あまり話さない+全く話さない+わからない」かと、「三世代同居か核家族か」との間にも、有意な関連性は見られなかった ( $\chi^2 = 0.483$ ,  $df = 1$ ,  $p = .487$ )。

さらに「子供の時、家族に投票所へ連れて行ってもらったことがあるか」について「いつもあった+時々あった」か「あまりなかった+全くならない+わからない」かと、「三世代

同居か核家族か」との間にも、有意な関連性はなかった ( $\chi^2 = 0.173, df = 1, p = .677$ )。

このように、三世代同居の回答者は、核家族の回答者と比べて、政治的会話の頻度や、子供の頃に投票所へ連れて行ってもらった頻度が特に多いとは言えない。また、家族が投票に行くのを見て自分も投票に行こうと思うこと、言い換えれば、投票行動のモデリングへの動機づけについても、三世代同居だからといって特に強いということはない。

### 3.6 夫婦投票や期日前投票、その他の家族投票の傾向との関連

さらに、夫婦投票や期日前投票、その他の家族投票の傾向と、「三世代同居か核家族か」との間の関連性についても検討する。

まず、実家では「夫婦で投票に行くことの多い人がいるか」を複数回答で尋ねた質問では、父母、祖父母、兄や姉夫婦といった具体的な夫婦の組み合わせごとには有意な関連性は見られなかったものの、実家では夫婦で投票に行くことの多い人が「特にいない」かどうかと、「三世代同居か核家族か」との間には、有意な関連性が見られた。具体的には、三世代同居の回答者は、核家族の回答者と比べて、実家では夫婦で投票に行くことの多い人が「特にいない」

と答えた割合が少なかった (表35)。言い換えれば、三世代同居の回答者の実家では、父母、祖父母、姉・兄夫婦といった、何らかの組み合わせの「夫婦」で投票に行くことの多い人が、核家族の回答者の実家よりも多い、という結果が得られたことになる。

また、実家では期日前投票に行く人が多いかに関しても、「とても多い」と「やや多い」を合わせた割合は、三世代同居の回答者の方が、核家族の回答者よりも多く、逆に「わからない」と答えた割合は核家族の回答者に多かった (表36)。ただしこれに関して、明推協調査の結果では、2014年衆院選に投票した回答者に対して、「期日前投票・不在者投票をした」か「当日投票をした+無回答」かと、家族構成との間でクロス表を作って独立性の検定をしたものの、有意な関連性は見られていない ( $\chi^2 = 5.134, df = 4, p = .274$ )。

(表35) 家族構成と夫婦投票のクロス表

	夫婦で投票に行く・ 特にいない		合計
	非選択	選択	
三世代同居	32 72.73%	12 27.27%	44 100.00%
	2.2	-2.2	
核家族	29 50.90%	28 49.10%	57 100.00%
	-2.2	2.2	
合計	61 60.40%	40 39.60%	101 100.00%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。  
 $\chi^2 = 4.956, df = 1, p = .026$

(表36) 家族構成と期日前投票のクロス表

	とても多い+ やや多い	あまり多くない +全くいない	わからない	合計
三世代同居	15 34.09%	25 56.82%	4 9.09%	44 100.00%
	2.1	.8	-3.0	
核家族	9 15.79%	28 49.12%	20 35.09%	57 100.00%
	-2.1	-.8	3.0	
合計	24 23.76%	53 52.48%	24 23.76%	101 100.00%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。 $\chi^2 = 10.843, df = 2, p = .004$

一方、実家では同居する家族以外と一緒に投票に行くことがあるかについて、「とてもある+ややある」か「あまりない+全くない+わからない」かと、「三世帯同居か核家族か」との間で、フィッシャーの直接確率検定を行ったものの、有意にはならなかった ( $p = .694$ )。つまり、どのような家族構成であっても家族だけで投票所に行く傾向があり、近所の人や知人など家族以外の人と一緒に投票に行くことは少ない。

また、実家では投票する時に、投票所だけに行って帰ってくる人が多いかについて、「投票所だけに行って帰ってくる人が多い」か「投票所以外に、どこかに出かけてくる人が多い」か「投票に行かない人が多い+その他+わからない」かと、「三世帯同居か核家族か」との間で独立性の検定を行ったが、有意な関連性は見られなかった ( $\chi^2 = 3.766$ ,  $df = 2$ ,  $p = .152$ )。

### 3.7 投票参加で得られる効用との関連

ライカーとオードシュックの合理的選択理論によれば、自分の一票が選挙結果を左右する可能性や表出的効用が大きいほど投票に参加することで得られる効用が高く、逆に投票参加のコストが大きいほど投票に参加することで得られる効用は少なくなると考えられている (Riker & Ordeshook 1968, 川人他 2001)。そこで、自分の一票が選挙結果を左右する可能性としての「接戦度」、投票参加のコスト、また表出的効用の一つとしての「義務投票感」について、三世帯同居と核家族の間で差異があるかを調べた。

まず、回答者の実家の地域では、選挙の時に候補者同士が接戦であることが多いかについて「接戦であることが多い」か「接戦でないことが多い」か「選挙ごとに異なる+わからない」かと、「三世帯同居か核家族か」との間に、有意な関連性はなかった ( $\chi^2 = 7.378$ ,  $df = 3$ ,  $p = .061$ )。

投票に行くことは大変かについても、「とても大変だ+やや大変だ」か「あまり大変ではない+全く大変でない+わからない」かと、「三世帯同居か核家族か」との間で、フィッシャーの直接確率検定を行ったものの、有意にはならなかった ( $p = .399$ )。

実家では「投票に行くべきだ」という考えが強いかについても、「全く強くない」と「わからない」の回答を結合して項目の再カテゴリー化をした上で、「三世帯同居か核家族か」との間で独立性の検定を行ったものの、有意な関連性は見られなかった ( $\chi^2 = 1.648$ ,  $df = 3$ ,  $p = .649$ )。

このように、投票に参加することで得られる効用について、接戦度や投票のコスト、義務投票感といった要因は、三世帯同居と核家族の間で大きな違いを見なかった。

### 3.8 家族がもっと投票しやすくするための方法との関連

最後に、家族がもっと投票しやすくするためにどのようなことをすればいいかについて、自由回答の再カテゴリー化を再び行い、「投票制度関連」、「意識改革や選挙情報関連」、「その他+問題なし」という項目に分けた上で、「三世帯同居か核家族か」との間でクロス表を作り、独立性の検定を行ったものの、有意な関連性は見られなかった ( $\chi^2 = 1.270$ ,  $df = 2$ ,  $p = .530$ )。

## 4 考察

### 4.1 明推協調査の二次分析結果の考察

本論文では、三世代同居の家族が持つ特徴や投票動員に関する傾向がどのようなものかについて、アンケート調査データを元に分析してきた。

明推協調査の二次分析から、まず三世代世帯が多い地域には違いがあり、東北、北陸、東海で多く、北海道や関東で少ないという特徴がある。

また、三世代世帯は人口10万人未満の市や郡部といった人口の少ない地方に多く、生まれてからずっと居住している人が多い。

婦人会やPTAのような地域団体に加入している割合が多いのは、母・祖母の世代や、子供を持つ親の世代が三世代世帯に含まれているからであろう。さらに農林漁業団体に加入していたり、自営業主・自由業者・家族従業が多いことから、三世代世帯には農林水産業に従事していることが多いと考察される。そして、団体のどれにも加入しない割合が少ない、つまり何らかの団体に参加していることが多いことは、三世代世帯が地縁的な人々のネットワークの中で暮らしていることを示唆していよう。

年齢構成では、20歳代から50歳代が多い二世代世帯（親と子）、子供が独立して夫婦二人暮らしになった世帯を多く含むためか60～70歳代が多い一世代世帯（夫婦だけ）に対して、三世代世帯は60歳代が少ないだけで、広範な世代から家族が構成されている。

学歴において短大・高専・専修学校卒の割合が多いことは、母や祖母の世代が三世代世帯に含まれていることによるのかも知れない。

三世代世帯の政治的態度に関しては、比較的はっきりとした特徴が見られる。保守イデオロギーでは保守的と答える割合が高く、支持政党でも自民党支持の割合が多く、支持政党なしの割合は少ない。衆院選での投票政党先についても、支持政党と同様に、自民党に投票する割合が概ね多かった。

しかし、このように三世代世帯は政党支持が鮮明であり、政党支持なしが少ないにも関わらず、これらが投票動員へと大きく結びついているわけではない。2014年衆院選で投票に行った割合は、三世代世帯で特に大きいとは言えなかったし、そもそも、三世代世帯の回答者は、政治への関心をあまり持たない割合が多い。また、今後の生活の見通しでは「どちらかといえば良くなる」という回答が多く、選挙制度についても政策課題として考慮されることは少ないなど、三世代世帯では、生活状況の見通しや選挙制度に関してあまり問題視していない。

家族の戦後体制においては、家的な同居規範と核家族化の両立が可能となり、直系家族制の同居規範は弱まり変質したものの、形を生き永らえた（落合 1994）。そもそも、三世代世帯を営んでいるということは、たとえば「親の面倒は長男が見なければいけない」といったように、伝統的な家制度や直系家族制の同居規範を、程度の差はあれ、受け入れているからであろう。

とすれば、三世代世帯の保守的志向とは、保守政党を政策的に支持しているというよりも、このような伝統的・慣習的な家族生活上の規範によるところが大きいであろう。三世代世帯では、政党の選挙公約などが記載されたパンフレットを見聞きすることも、役だったものに挙げることも少ないが、これらの傾向も、三世代世帯が、政党の政策自体にとりわけ注目していないことを示していよう。

このように、三世代世帯では家的な同居規範に起因する保守的志向が、選挙による政策実現動機とあまり強く結びついていないことにより、三世代世帯が投票に行く割合も、他の世帯構成と比べて、特に大きくならなかつたものと考えられる。

続いて、投票時に考慮する政策課題に関しては、三世帯世帯の回答者は候補者選定の考慮点で「地元の利益を考えて」を選択することが多かった。これは上で述べた三世帯世帯の地域性と関連していると思われる。また、考慮した政策課題で「子育て・教育」を選択する割合が多いことは、三世帯世帯に子供や親の世代が含まれているからと思われる。一方で、三世帯世帯には年金支給開始年齢に当たる60代が比較的少ないためか、年金については投票先選定の際にあまり重要視されていない。

選挙情報の利用のしかたについても、三世帯世帯では、家族や知人といった人づてに情報取得を行うことが多く、インターネットによる情報取得は少ない。また、三世帯世帯では、政党の選挙公約などが記載されたパンフレットを見聞きすることも、役だったものに挙げることも少なく、ホームページやブログ、SNSといったインターネットによる選挙運動も役だったという回答が少なかった。これらは、三世帯世帯がその中で暮らしている地縁的ネットワークを、選挙の時にも活用しているからと思われる。

三世帯世帯には、選挙啓発運動に対する認知度が高いという特徴もある。三世帯世帯では、明るい選挙推進協会や白バラ会といった選挙をきれいにする運動組織を知っている割合が多く、選管からの投票呼びかけを見聞きしなかった割合が少なかった。また、今回の衆院選の実施について全体としてきれいに行われたかどうかについて、「そうとはいえない」という回答も少なかった。

三世帯世帯率が特に高いことで知られる山形県には、かつて全国に先駆けて公明選挙運動が大衆化し、その後も白バラ会運動の実践といった選挙啓発運動が進められた伝統がある(亀ヶ谷 2003、2008a、2008b)。三世帯世帯には、これらの選挙啓発運動が活発に行われていた時期を知っていたり、実際に参加していた世代が含まれているから、このことが選挙啓発運動への認知度の高さとして表れたのかも知れない。

一方で、調査当時には未だ実現していなかった選挙権年齢の18歳以上引き上げの賛否については、三世帯世帯では反対の割合が多かった。これは上で述べたように、家的な同居規範に起因する三世帯世帯の保守的志向によるものと考えられる。

#### 4.2 三世帯同居アンケートの分析結果の考察

三世帯同居アンケートの分析でも、三世帯同居は山形県に多いという結果となり、ここでも三世帯同居の分布には地域性が見られた。

また、三世帯同居は核家族よりも、家族がいくつかのグループに分れて投票に行くことが多く、家族成員別に見ても、父母や回答者自身では、いくつかのグループに分れて投票することが多いことが分かった。

さらに、三世帯同居では、父母、祖父母、姉・兄夫婦といった、何らかの組み合わせの「夫婦」で投票に行くことが多いという傾向が見られた。

このように三世帯同居は核家族と比べて、その地域性や家族投票、夫婦投票の行われ方に違いがあった。しかしながら、三世帯同居アンケートの結果からは、亀ヶ谷(2018b)で示したような三世帯同居の間接的な投票動員効果を見いだすことはできなかった。

山形県の県政アンケート調査では、三世帯同居又は近居のメリットとして、育児や家事を手伝ってもらえることが多く回答されている(山形県企画振興部企画調整課 2015)。しかし、三世帯同居アンケートの結果では、育児や家事がある人が投票に行けるように別の家族が手伝うことも、会社や家業の仕事がある人が投票に行けるように別の家族が手伝うことも、運転できない人が投票に行けるように別の家族を車に乗せてあげること、三世帯同居だからといって、特に多く行われているとは言えなかった。

また、家族間の政治的社会化のしやすさに関する要因についても、三世代同居と核家族の間で大きな違いは見られなかった。ふだん選挙に関する話題を話す頻度も、家族が投票に行くと自分も行きたくなるかどうか、子供の頃に親に投票所に連れて行ってもらった頻度も、三世代同居だからといって核家族と比べて多いとは言えなかった。

さらに、投票参加で得られる効用に関する要因について、選挙の接戦度、投票コスト、投票義務感のいずれも、三世代同居と核家族の間で大きな差は生じていなかった。

## 5 おわりに

三世代同居者には、かなりはっきりとした保守的志向や政党支持があるものの、それは投票所へ行くことには、あまり結びついていない。投票に関する家族間の協力行動や、政治的社会化のしやすさに関する要因、投票参加で得られる効用に関する要因についても、三世代同居であるからといって、核家族と比べて大きな違いは見られない。

とすれば、投票率が高いという現象を説明するのは、ただ三世代同居だからということではなく、三世代同居であればいくつかのグループに分かれて夫婦単位で投票を行うことが多くなり、そのような家族投票や夫婦投票の形態が投票者数を増やすことにつながっているから、ということになるのではなかろうか。

表37は、夫婦で投票に行くことの多い人が「特にいない」と答えなかった、言い換えれば、夫婦で投票に行くことの多い人が家族の中にいる回答者を対象として、「三世代同居か核家族か」と、家族投票類型との間で作ったクロス表である。これを見ると、二つの変数間には有意な関連性があり、三世代同居での夫婦投票は「家族がいくつかのグループに分かれて投票に行くことが多い」の割合が大きく、核家族での夫婦投票は「家族みんなで投票に行くことが多い」の割合が大きいことが分かる。

三世代同居の家族は、いくつかのグループに分かれて投票所に来場することが多く、そのような家族投票の形では夫婦投票も多い。このことは、三世代世帯率が高い尾花沢市の方が、三世代世帯率が低い米沢市に比べて、同世代夫婦で投票に来ているケース数や動員数が多かったという観察結果とも符合している（亀ヶ谷 2018b）。そして米国の研究では、既婚の成人は未婚者より投票しやすいことが明らかにされている（Wolfinger & Wolfinger 2008）。

もし三世代同居が投票率の向上に寄与しているとすれば、それは政治的志向や家族内での投票に関する協力関係、家族内での政治的社会化のしやすさ、投票参加で得

(表37) 家族構成・家族投票類型ごとに見た夫婦投票のクロス表

	夫婦で投票に行く・特にいないを非選択		合計
	三世代同居	核家族	
家族みんなで投票に行くことが多い	7 21.88%	16 55.17%	23 37.70%
	-2.7	2.7	
家族がいくつかのグループに分かれて投票に行くことが多い	17 53.13%	7 24.14%	24 39.34%
	2.3	-2.3	
家族が一人一人、別々に投票に行くことが多い+その他+わからない	8 25.00%	6 20.69%	14 22.95%
	0.4	-0.4	
合計	32 100.00%	29 100.00%	61 100.00%

(注) 表中の数字は上から度数、割合、調整済み残差。

$$\chi^2 = 7.846, df = 2, p = .020$$

られる効用といった要因によるものではないだろう。むしろ、いくつかのグループに分かれて投票したり、夫婦で投票することが多いといった、三世代同居に特徴的な家族投票や夫婦投票の形態それ自体が、投票者の増加につながっているのではないだろうか。

## 引用文献

- 明るい選挙推進協会 2015 第47回衆議院議員総選挙全国意識調査 ―調査結果の概要―  
明るい選挙推進協会
- 亀ヶ谷雅彦 2003 山形における公明選挙運動について 山形県立米沢女子短期大学紀要  
39 47-73
- 亀ヶ谷雅彦 2008a 山形県における公明選挙運動の地方への広がり ―米沢市などの青年団  
史料から― 山形県立米沢女子短期大学紀要 43 67-81
- 亀ヶ谷雅彦 2008b 山形県における白バラ会運動の展開について 山形県立米沢女子短期  
大学紀要 44 35-46
- 亀ヶ谷雅彦 2018a 三世代同居と投票率に関するフィールドワーク的研究 山形県立米沢  
女子短期大学生生活文化研究所報告 45 37-52
- 亀ヶ谷雅彦 2018b 三世代同居と投票率に関するフィールドワーク的研究(2) 山形県立米  
沢女子短期大学紀要 54 65-78
- 川人貞史他 2001 現代の政党と選挙 有斐閣
- 落合恵美子 1994 21世紀家族へ(第3版) 有斐閣
- Riker, W.H. & Ordeshook, P.C. 1968 A Theory of the Calculus of Voting. *American Political Science  
Review*, 62(1), 25-42.
- 山形県企画振興部企画調整課 2015 平成27年度 県政アンケート調査報告書 山形県企画  
振興部企画調整課
- Wolfinger, N.H. & Wolfinger, R.E. 2008 Family Structure and Voter Turnout. *Social forces*, 86(4),  
1513-1528.